

Biofunction Dental Medicine (BDM) 通信 Vol. 15

3月の終わりにアメリカから帰国して以来、非常事態宣言のため、ほぼ2ヶ月にわたり宮崎におります。

当院は100%自由診療クリニックということもあり、もともと診療日は月に8-9日程度ですので、コロナによってクリニック運営に影響がでるようなことはないのですが、海外に行けないのは生活のリズムに大きな変化をもたらしました。

4月はスイス、5月はフィリピンに行く予定でしたが、すべてキャンセルとなりました。6月にスイスのSDSインプラントセミナーとバルセロナ大学カダバーコース、7月にシアトルのKOISシンポジウムを予定しておりますが、規制は緩んできているとは言えども入国制限が続けばこれらも断念せざるを得ません。

コロナのような難局に遭遇した場合、我々にはレジリエンス（ストレス耐性）が問われるのだと思います。このような時は、フランクシナトラの「That's life」の歌詞にある様に、5月に沈んでも6月には調子が変わりふたたび這い上がれるものと信じつつ、時間を無駄にしないような過ごし方をするしかありません。

さて、先述の通り、当院はBDMコンセプト（機能生物学的歯科治療）に基づいた完全自由診療クリニックですので、全身を考慮した全顎治療の患者さんがほとんどです。そのため、1人の患者の1回の治療時間も2-5時間かけて広い診療空間で進めていきますので、治療行為を行うときの密

接は仕方ないとしても、密集や密閉にはなりにくい環境です。

ですが、それでも待合室に設置していた本などの資料は、感染の媒体になりうるのですべて処分しました。そして、オゾン水やオゾンガスを用いて感染予防に配慮するようにしています。これであれば、消毒用エタノールの不足で困ることはありません。

また、コロナが蔓延するのに伴い、点滴を求める患者が増加しています。口コミや紹介でいらっしゃるケースが多いですが、ほとんどの方が、血液オゾン療法とマイヤーズカクテルの組み合わせ点滴を受けられます。ただし、言うまでもなく、「口腔の健康維持」を目的とした治療であることを説明し、同意書を取った上で実施しています。

このように特殊な状況だからこそ、患者が点滴を受け入れやすいタイミングなのだと思いますので、ピンチをチャンスと捉え、読者の皆さんにもこれを機会に点滴療法にさらに積極的に取り組んでいただきたいと思います。

それでは、本題に入ります。今回から、SDSジルコニアインプラントについて解説しますが、まずは、歴史的なお話や周辺的なお話から始めたいと思います。

前回のコラムでもお伝えしましたが、今年3月にSDSジルコニアインプラントはアメリカFDAの承認をとりましたので、コロナが落ち着いたらアメリカで着実にユーザーが増えると思います。

アメリカではすでに数社のジルコニアインプラントが市中で販売されていますが、ドイツやスイスがそうであったように、これらのインプラントユーザーの多くがSDSへコンバートするのは明らかです。理由は簡単で、SDSには他にない圧倒的優位性があるからです。

SDSジルコニアインプラントの最大の特徴は、何と言ってもBiological Conceptに基づいた治療の一環として行われるところにあります。チタンインプラントや既存のジルコニアインプラントのように口腔と簡単な問診のみの検査と診断に依拠した局所治療ではないのです。

つまり、全身の健康状態を考慮し、いくつかの血液検査の結果が基準値にならないければインプラント手術は実施しません。そのために、点滴療法やサプリメント療法をPreconditioningとして投与することがしばしば出てきます。反対に、口腔の問題が全身の健康に影響する場合やその危険性がある場合は、インプラント治療に入る前にPreconditioningとしてこれらを口腔から取り除きます。しばしば対象となるのは、失活歯（Orotox Testで毒性が認められたもの）、すべての金属、FDOJ（脂質変性歯槽骨壊死）です。

したがって、従来のインプラントのように、口腔機能や審美性の回復のみを目的としているのではなく、そのようなコンサバティブな歯科的治療目的は当然ながら含みつつ、同時に、ヒポクラテスの時代から言われている通り

「口腔と全身を切り離して考えることなど無意味であるし不可能である」という普遍的な視点から両者を同一と捉えて生物学的にアプローチするということです。

さらに、チタンのもつ免疫攪乱性は、ガンを始め全身の健康に悪影響を与える危険性があることが明らかにされつつあることから、生物学的にこのような医療素材を使わないという意味があります。

ところで、ジルコニアインプラントを最初に商品化し世の中に流通させたのは、SDSインプラントのFounderでもあるドイツのUlrich Volz歯科医師です（写真1）。先述のようにSDSインプラントが他のジルコニアインプラントよりも優れている理由は、古いタイプのインプラントのデザインや構造もVolz先生が考案したものであり、彼は、その問題点（破折しやすさなど）をクリアするために立ち上げたのがSDSであるからです。

彼は、かつて、統合医療で世界的に有名なスイスのパラセルサスクリニックの歯科部長でした。そのため、パラセルサスのトマス ラウ名誉院長とは旧知の仲です。

ご存知の方もいらっしゃると思いますが、パラセルサスは歯科部門と内科部門が併設しており、ガンなどの免疫系疾患患者では治療に先立ち口腔内のすべての失活歯を抜歯します。生物学的な観点から失活歯は生体によって有害であることから根管治療は一切おこなっていません。

Volz先生の開発したSDSジルコニアインプラントを支え

ているBiological Conceptは、このようなバックグラウンドから醸成されたものです。

そして、フランスのショクーン医師（PRF開発者）も彼のBiological Conceptに大きな影響を与えています（写真2）。

前回のコラムでお話ししたように、いまや歯科における組織再生療法において世界のファーストチョイスと言えるPRFをもちいて成長因子や間葉系幹細胞を術野に供給させることはもちろん、これもショクーン先生がいつも力説している「ECM（細胞外マトリックス）に外的な力が加わることで毛細血管が圧迫されて血流障害が起こることを予防しなければならない」というコンセプトが配慮されたインプラントデザインになっています。

さらにもう一人挙げれば、ドイツのヨハン レクナー 歯科医師です（写真3）。彼は、失活歯の毒性レベルを調べるOROTOX TESTの開発者であり、ドイツでは医科の世界でも大変有名です。

<https://www.orotox.de/jp/>

彼のもう一つのライフワークはFDOJ(かつてNICOと呼ばれていた脂質変性歯槽骨壊死)の検出方法の開発とその確実な撤去方法の確立です。

昨年、レクナー 先生は画像診断にて確実にFDOJを検出できる医療機器を開発しました。これについては、今年の9月に、OROTOX TESTも含めてミュンヘンで2日間のプラ

イベントセミナーを予定しておりますので、ご興味のある方は下記メールまでお問い合わせください。

biodm@org.jp

ちなみに、ドイツ人医師でシアトルやロンドンで開業しているデイトリッヒ クリングハート医師は、ライム病治療や解毒で世界的に有名ですが、Volz先生が院長を務める Swiss Biohealth Clinicの副院長も兼任しています。

先日、SDS主催のWebinarでVolz先生とクリングハート先生によるCOVID-19に関する対談がありました。その中でメラトニンによる予防効果について言及がありました。

メラトニンはヒドロキシラジカルにさえも抗酸化作用を発揮する抗酸化物質で、COVID-19によるCRS（サイトカイン放出症候群）によるミトコンドリア機能不全を改善することが期待されています。

また、コロナウイルスのレセプターであるACE2受容体の発現を調整する作用をもっているため、ウイルスの結合を阻害する作用も期待されています。

ちなみに、私は海外出張が多いので、年中時差ボケなのですが、メラトニンはサーカーディアンリズムの補正にも非常に有益で、手放すことができません。

このWebinarシリーズでは、さらに、Volz先生とトーマス レビー先生との対談も収録されています。レビー先生は映画「ROOT CAUSE」で一躍有名になりましたので、先述のトマス ラウ先生と同様に、いろんなところで拝見するようになりました。

その中で、レビー先生は、COVID-19の予防には、ビタミンC D Kそしてマグネウムが4大重要栄養素だと言っています。

参考までに、骨代謝に関してはVDとVKの摂取比率が重要で、10,000IUのVD3に対して100 μ gのVK2が理想的です。VK2 (MK7) は、納豆に豊富に含まれています。

これらのWebinarはyoutubeでご覧いただけます。

クリングハート先生対談

<https://www.youtube.com/watch?v=t1CGMZ7OAho>

レビー先生対談

https://www.youtube.com/watch?v=L8I_ucer7x0

最後に、これから予定されているWebinarのご案内です。

SDSインプラントの基礎が学べるSDS Basic Webinarを6/21に開催いたします。SDSジルコニアインプラントを導入するための登竜門ですので、まずはこちらにご参加ください。セミナー内で最新SDSインプラントライブサージェリー動画配信情報もお伝えします。詳しい案内をご希望の方は、下記メールまでご連絡ください（写真4）。

biodm@org.jp

また、7/19にはBDM(機能生物学的歯科医学)のエッセンスセミナーを開催いたします。各種点滴療法をはじめ、最

新のデジタルテクノロジーなどこれから100%自費治療にシフトされる先生や自費治療メニューを増やしたい先生に最適です。これまで聞いたことのない検査法や治療法が満載だと思います。こちらも、詳しい案内をご希望の方は、下記メールまでご連絡ください（写真5）。

biodm@org.jp

次回も生物学的治療コンセプトのポイントを織り交ぜながらSDSジルコニアインプラントについてお話しいたします。

<写真1>



ボルツ先生と

<写真2>



ショクーン先生と

<写真3>



左：レクナー 先生
中：ロバートCEO

<写真4>



SDSジルコニアイ
ンプラント
Live Surgery
by Dr.Volz

<写真5>

**Biofunction Dental Medicine
Essential Webinar**

2020年7月19日開催

**機能生物学的歯科医学コンセプトによる
全く新しい次世代歯科医療**

**BDM CENTER
Yasuhiro Shimpuku**